

お手入れ時の注意事項

商品を長く使うために、商品に応じたこまめなお手入れと不具合が生じた時の調整が大切です。お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れは、しみ、腐食やさびの原因となり、他の不具合が発生します。

本書のお手入れ方法や調整方法に従ってお手入れしてください。

- 汚れがついたら早めにお手入れしてください。特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみ、腐食やさびが進みやすいのでさらにこまめにお手入れしてください。また不具合が生じた場合、調整方法に従って調整してください。調整を行うことにより元に戻ることがあります。
- お手入れの際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで強く水をかけないでください。室内側へ水が入る場合があります。

【薬品への配慮】

- 有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）が表面に付着すると、ひび割れやはがれなどが生じますので、お手入れには有機溶剤を使用しないでください。
- 塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）が表面に付着したまま放置された場合、表面が変色することがあります。
付着した場合はすみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】

- たわしや金属たわしなどは傷つきやすいので、絶対に使用しないでください。表面にキズがつくおそれがあります。
- 砂などがついたままふき掃除をすると、表面にキズがつくおそれがあります。

【電動商品の場合】

- お手入れの時、電装部品に水がかからないようにご注意ください。故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店または販売店にご相談ください。

【調整する場合】

- 商品の調整に電動ドライバーは使わないでください。
商品の不具合や破損の原因となります。
- 調整に必要な箇所以外のネジをゆるめないでください。
商品の不具合や思わぬけがの原因となります。
- ご自身で調整を行う場合は、本章に記載する方法に従ってください。
ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または、当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お手入れ方法

アルミ製商品／スチール製商品／樹脂製商品／ アクリル・ポリカーボネート板

■ スチール製商品

- ・さび、腐食、色落ちに対する注意が必要です。表面に汚れがついたら早めに洗い落としてください。
- ・玄関ドアの鋼板表面を水や中性洗剤でふいても艶や色あせが改善されない場合は、研磨剤の入っていない鋼板に適したワックス（注1）を使ってお手入れする（注2）ことをお勧めします。

（注1）：（ワックスの一例） セラリカコーティングピュア

（注2）：ワックスを使用する場合には、その用途を確認し、説明書に従ってお手入れしてください。ドア鋼板に適さないワックスは、変色や汚損の原因となりますので使用しないでください。

■ 樹脂製商品

- ・ストーブやアイロンなどの熱源を近づけたり、触れたりしますと変形することがありますので、熱源を商品に近づけないでください。
- ・樹脂表面に殺虫剤などの薬剤を塗布・散布し付着しないようご注意ください。薬剤が付着するとひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

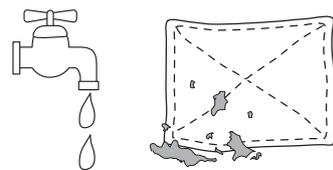
■ アクリル・ポリカーボネート板

- ・有機溶剤を含む、殺虫剤やガラスクリーナーは商品に付着しないようにしてください。ひび割れの原因になります。

■ 通常のお手入れ

1 表面のホコリ・砂を落とす

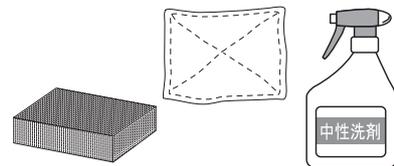
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

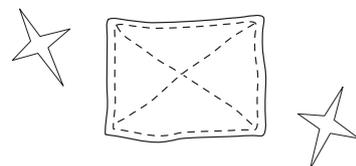
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

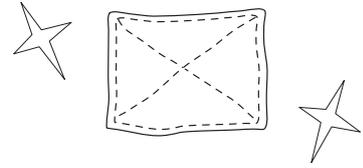
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■結露・雨水などがかった場合

1 水分をふき取る

すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



ガラス

- ガラス表面にキズがつくと割れるおそれがありますので、お手入れの際は必ず柔らかい布をご使用ください。
- 表面にキズがついてしまった場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、または販売店にご相談ください。

■ ガラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇ったときなどに、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってるラベルの跡が浮き出てくることがあります。

この現象は、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。

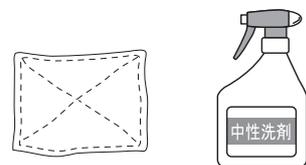
中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。

ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

■ ガラスのお手入れ

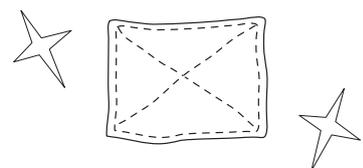
1 汚れをふき取る

柔らかい布に中性洗剤（1～2%の水溶液）を浸し、汚れをふき取ります。



2 水分をふき取る

乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



ハンドル・引手

(→P.151「■通常のお手入れ」)

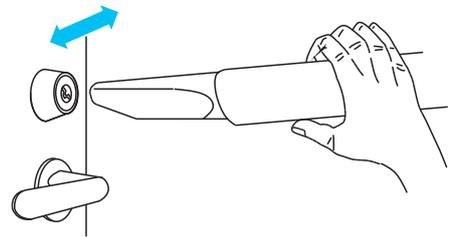
カギ・カギ穴

- 油の含まれている潤滑剤（CRC、シリコンスプレーなど）は使用しないでください。油にホコリやゴミがついてカギ穴内部に粘着し、作動不良や故障の原因となります。

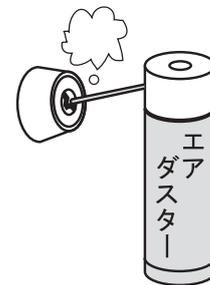
■カギ穴のお手入れ

1 ゴミを吸い出す

掃除機をカギ穴につけ、左右に振って中のゴミを吸い出します。



または
パソコンのキーボードのゴミを飛ばすエアダスターなどを使って中のゴミを吹き飛ばします。

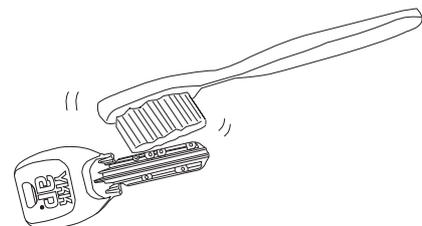


■カギのお手入れ

1 汚れをかき出す

古い歯ブラシなどで、きざみ部分やミゾの汚れをかき出します。

※定期的に掃除をしてください。

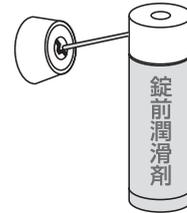
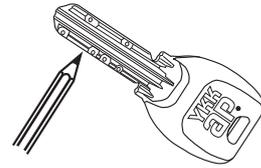


■カギ穴の抜き差しがスムーズにできない、または重い時

1 きざみ部分やミゾを黒く塗る

カギのきざみ部分やミゾを鉛筆でなぞり、黒く塗ります。

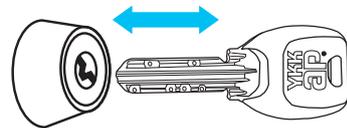
または
錠前潤滑剤をカギ穴に少量スプレーします。



※錠前潤滑剤のご購入はYKKAP Parts Shop まで。
(<http://parts.ykkap.co.jp/shop/>)

2 カギを抜き差しする

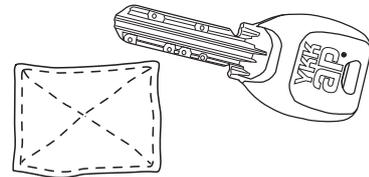
カギ穴に差し込み、数回抜き差しします。



3 黒い粉や潤滑剤をふき取る

カギに付着した黒い粉または潤滑剤を布などでふき取ります。

※必ずふき取ってください。そのまま使用すると、衣服等を汚す場合があります。

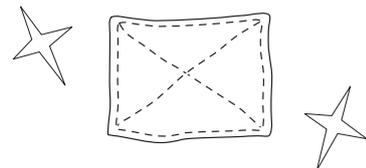


■リモコンのお手入れ

1 柔らかい布で空ぶきする

表面の汚れは、乾いた布や綿棒で軽くふき取ってください。

- お手入れの際、誤ってリモコンのボタンを押さないようご注意ください。
- リモコンの中に水が入ると故障の原因となりますのでご注意ください。



下枠・レール

- 下枠やレールは特に砂、ホコリ、ゴミなどがたまりやすいところです。こまめにお手入れしてください。

1 砂やホコリを吸い取る

レールのミゾ内部にたまった砂やホコリを掃除機で吸い取ります。

または、やわらかいブラシで砂やホコリを落とします。



2 汚れをふき取る

割り箸の先に布を巻き付け、さらに汚れをふき取ります。

